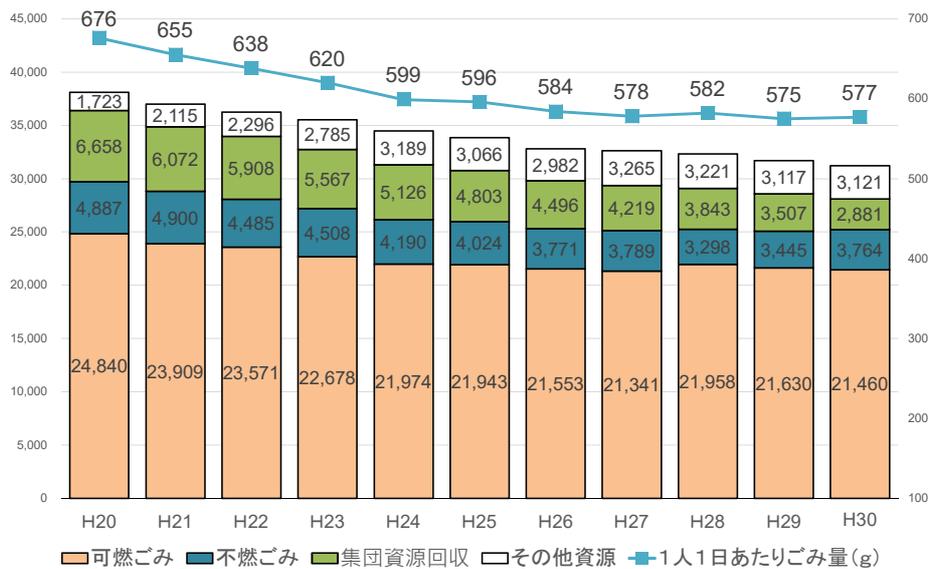


家庭系ごみ有料化に向けた 地域意見交換会

半田市市民経済部
クリーンセンター

令和元年(2019年)6月～8月

家庭系ごみの推移と内訳



ごみ減量目標

- 1人1日あたりの家庭系ごみ排出量目標値
平成32年度(2020年度) 510g
 (半田市一般廃棄物処理基本計画)

国が定める目標は……

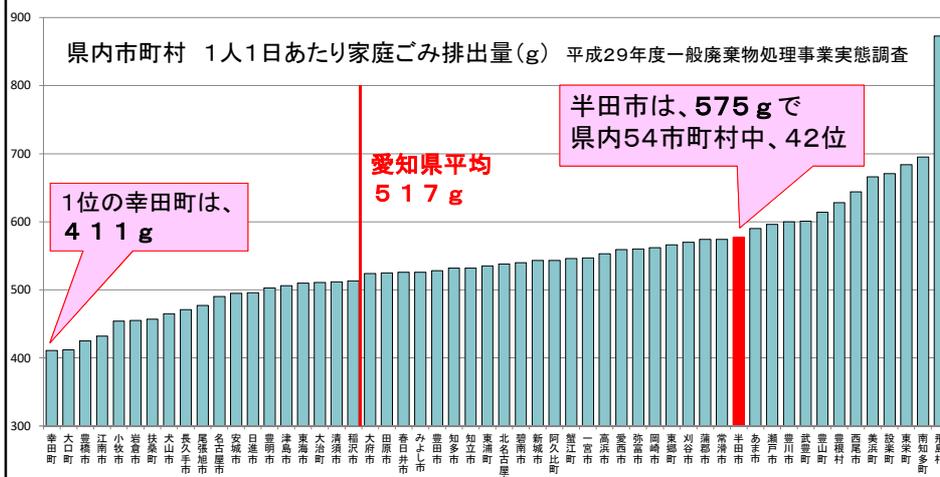
【第三次循環型社会形成推進基本計画】

→平成32年度(2020年度) 500g

【第四次循環型社会形成推進基本計画】

→令和7年度(2025年度) 440g

半田市のごみ量は……



半田市のごみ量は、県内で 42位(54市町村中)

知多南部広域環境センター

■令和4年（2022年）4月供用開始予定

■建設場所

愛知県知多郡武豊町字一号地

■敷地面積

約50,000m²

■施設規模

①熱回収施設：283 t/日（141.5 t/24h×2基）

②不燃・粗大ごみ処理施設：14 t/5h

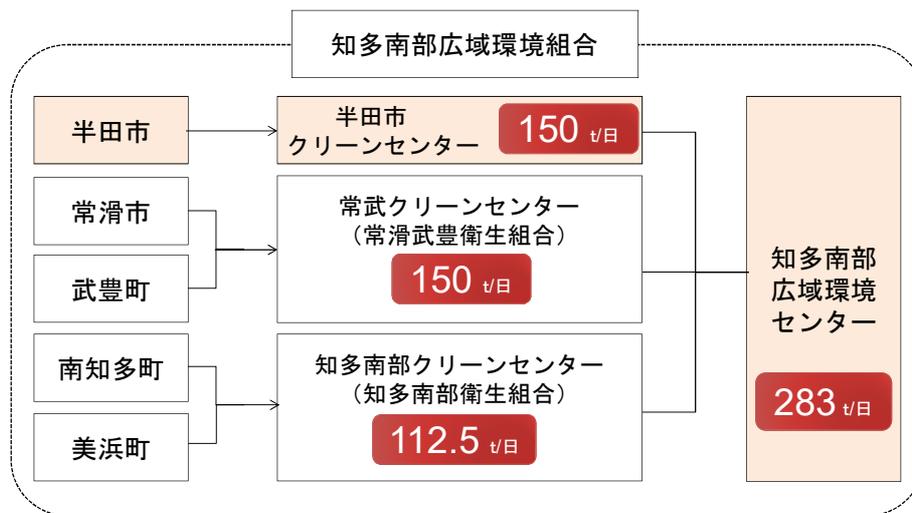
■余熱利用

蒸気タービンによる発電出力：6520kW

武豊町屋内温水プール（仮称）への熱供給：最大7GJ/h



広域施設の施設規模について



4・6・4 熱回収施設

平成35年度 処理量の見込み (t/年)

2市3町焼却処理量	70,696 t
可燃ごみ (可燃性粗大ごみを含む)	65,601 t
不燃・粗大ごみ処理施設からの可燃残渣	5,095 t
脱水污泥	3,088 t
災害廃棄物	2,214 t
合計	75,998 t

平成29年度
3施設の処理量合計
86,819t
↓
20%削減が必要

75,998t/年の日平均処理量は 208.21t/日

施設規模 (t/日) = 208.21t/日 ÷ (280/365) (実稼働率) ÷ 96% (調整稼働率) = 283t/日

※実稼働率：85日を休止（補修整備・補修点検及び起動、停止等）

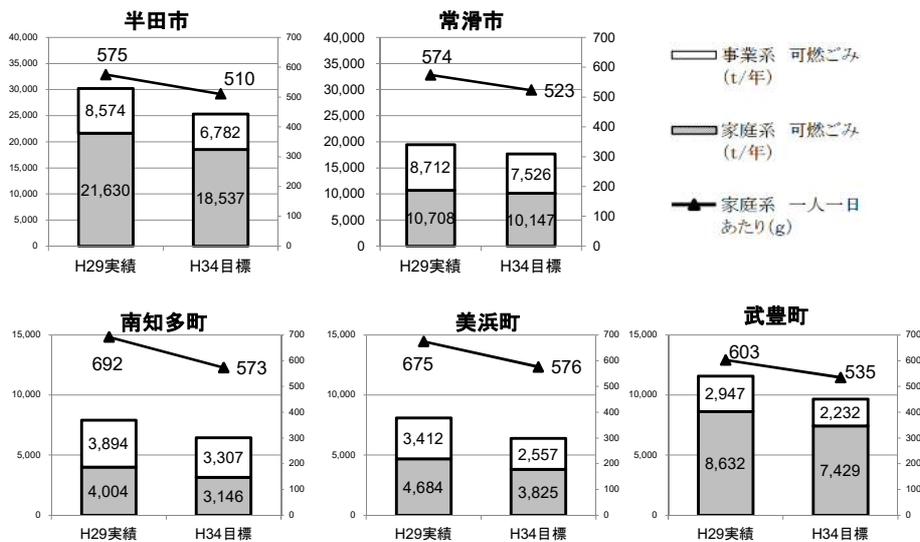
稼働日：280日（365日－85日） (280日÷365日)←実稼働率

※調整稼働率：故障の修理、やむを得ない一時停止等のために低下する係数 96%

※稼働時間：24時間

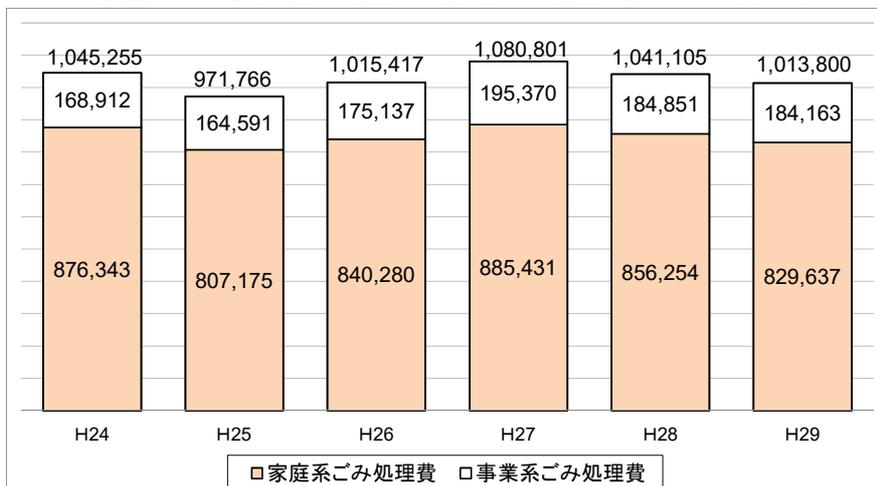
施設規模 283 t/日

広域化に向けたごみ減量目標



ごみ処理費用

ごみ処理費の推移(臨時的経費・資源物の処理経費を除く) (単位:千円)



ごみ処理費用

半田市のごみ処理にかかる費用

(平成29年度実績)

※臨時的経費・資源物の処理費用は除く

1年間で 約10億円

市民1人あたり 約8,500円

燃やせるごみ1袋(45ℓ)あたり 約160円



ごみ処理の課題 ～なぜごみ減量が必要か？～

ごみ処理の広域化
半田市のごみ処理は、令和4年（2022年）4月から知多南部広域環境センターでの処理に移行します

国の減量化目標を前提とした新しい焼却施設の処理能力は、1日283トン（現在の3施設の合計は412.5トン）

新施設の運営費用は、市町ごとに排出されたごみ量に応じて負担する方式



構成市町にとってごみ減量は大きな課題
半田市も更なるごみ減量と資源化に取り組む必要があります

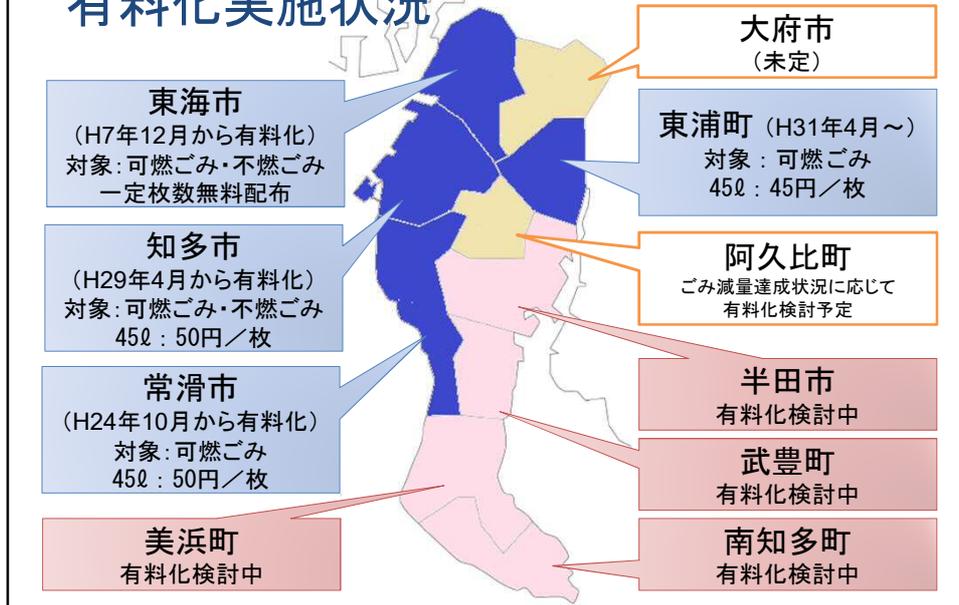
家庭系ごみ有料化とは？

家庭ごみを出す際に、市が指定する有料のごみ袋を使用することにより、ごみの排出量に応じて経済的な負担をしていただく制度

（現在の指定ごみ袋制度は、ごみ袋の作成にかかる実費を負担いただいておりますが、有料化の場合はごみを適正に処理するための費用の一部を作成費に加算して負担いただく制度です。）

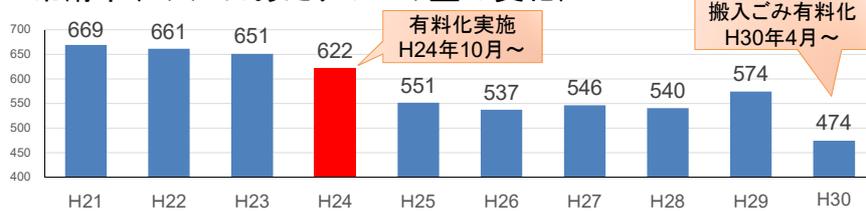
- 全国の60%超、県内の40%の市町村で既に導入されています。

有料化実施状況

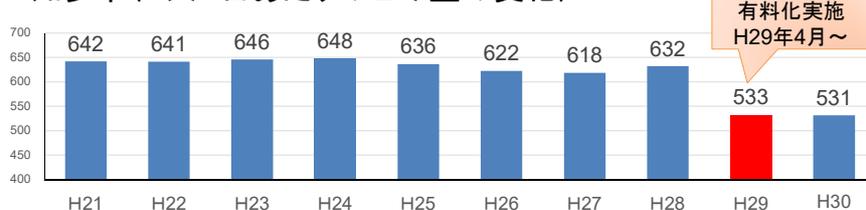


有料化によるごみ量の変化

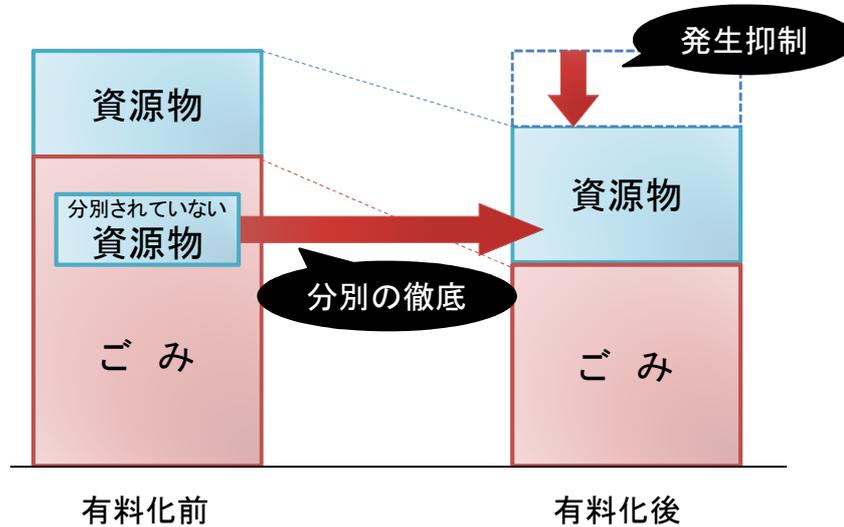
・常滑市(1人1日あたりのごみ量の変化)



・知多市(1人1日あたりのごみ量の変化)



有料化によるごみ減量のイメージ



有料化の目的と効果

■ごみの減量と資源化の推進

ごみを減量し、資源化率を向上させます

■負担の公平性の確保

ごみの排出量に応じた負担の公平性を確保します

■財政負担の軽減

ごみ処理経費を削減し、将来の負担を軽減します

有料化の対象は、 「燃やせるごみ」「燃やせないごみ」「粗大ごみ」

◎ごみステーションに排出されるごみ

区分	現在	有料化後
燃やせるごみ	指定ごみ袋 (手数料上乘せなし)	有料化 → 【新】指定ごみ袋 (手数料上乘せあり)
燃やせないごみ	袋指定なし	有料化 → 【新】指定ごみ袋 (手数料上乘せあり)
紙製容器包装等	指定資源袋 (手数料上乘せなし)	現行どおり
プラ製容器包装		
ペットボトル		
		指定資源袋 (手数料上乘せなし)

◎クリーンセンターに直接搬入されるごみの搬入手数料

区分	現在	有料化後
燃やせるごみ 燃やせないごみ 粗大ごみ	無料	有料化 → 有料 (搬入時に 手数料を徴収)
資源物(缶・びん・古紙等)	無料	現行どおり 無料

手数料の設定

手数料負担割合を、ごみ処理費用の3分の1とした場合…
「ごみ袋の容量1リットルに対し約1円の手数料」

■半田市指定ごみ袋 (燃やせるごみ)



袋の大きさ	(大)45リットル	(小)30リットル	(特小)20リットル
現在の1枚あたりの販売価格(税別)	~15円	~11円	~7.5円
1袋分のごみ処理費用	158.9円	105.9円	70.6円
有料化後の1枚あたりの販売価格(税込)	50円	30円	20円

■クリーンセンターへのごみ搬入手数料 10kgあたり 100円

1世帯あたりの負担額(試算)

1世帯(平均2.4人)あたりの年間ごみ量を可燃406kg・不燃42kgとして、45ℓの可燃ごみ袋を104枚(毎週2回排出)、20ℓの不燃ごみ袋を26枚(毎月2回排出)使用と想定

区分	現行	有料化後
燃やせるごみ	1,560円	5,200円
燃やせないごみ	0円	520円

4,160円/年
346円/月の増

ごみ減量に取組み、可燃ごみを45ℓから30ℓ袋にすると・・・

区分	現行	有料化後
燃やせるごみ	1,560円	3,120円
燃やせないごみ	0円	520円

2,080円/年
173円/月の増

有料化の対象としないごみ

※既に有料化した自治体の事例

(1) 紙おむつ

排出削減が困難なごみとして、乳幼児、高齢者、障がいのある方が利用する紙おむつについては、有料化の対象外とし、透明袋により排出できる自治体の事例があります。

(常滑市・知多市・東浦町)

(2) ボランティア清掃ごみ

地域のコミュニティやボランティア登録された団体へ、指定ごみ袋を提供することで無料にしている自治体の事例があります。(東浦町)

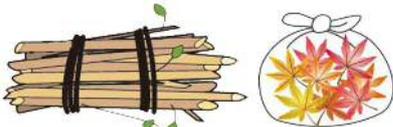


ごみ減量・資源化推進のための施策

令和元年10月～

刈草・剪定枝等の資源化を開始

一般家庭から排出される刈草・剪定枝等を新たに分別し、再資源化（堆肥化・チップ化）することにより可燃ごみの減量を図ります。



令和元年10月～

公共資源回収ステーション開設

資源排出機会の拡大を図るため、市内2か所に臨時の公共資源回収ステーションを開設します。



有料化実施時期

令和3年(2021年)4月の導入を目指しています

(今後のスケジュール)

2019年10月 有料化実施計画(案)パブリックコメント実施

2020年1月 有料化実施計画策定

2020年3月 市議会定例会 条例改正を上程

2020年4月～ 住民説明会・周知期間

2021年4月～ 家庭系ごみ有料化導入

意見交換会



- 皆様のご意見をお聞かせください。
- 時間に限りがありますので、多くの方にご発言いただけるようご協力をお願いします。
- お時間が足りない場合には、書面(本日配布の「意見用紙」)にてご意見を承ります。
- お寄せいただいたご意見・ご質問は、後日とりまとめてホームページ等で公表させていただきます。

<問い合わせ先>

半田市クリーンセンター

電話 0569-23-3567

FAX 0569-21-6405

clean-c@city.handa.lg.jp